「身近な不思議」に児童ら挑戦

山科・京都薬科大　実験取り組むイベント

お菓子に含まれるデンプンを調べる子どもたち（京都市山科区・京都薬科大）

「身近な夏の不思議体験２０２６イン山科」が26日、京都市山科区の京都薬科大で開かれた。地元の小学生が集まり、うがい薬のうすめ液を使ったヨウ素デンプン反応を調べる実験に取り組んだ。

身近な科学を題材にした実験を通じて、児童に理科への興味を持ってもらおうと、同大学などが開き、15回目。今回は午前と午後を合わせ、小学４～６年生95人が参加した。

児童は白衣と保護めがねをつけ、実験に臨んだ。このうち身の回りのデンプンを探す実験では、金平糖とポテトチップスを調べた。実験器具上のお菓子にうすめ液を加えると、ポテトチップスの方が青紫色に変わり、児童は真剣な様子で結果をメモしていた。

参加した大宅小５年松田優真さん（11）は「全てが不思議ばかりの実験で楽しかった。理科の教師（になるという将来）にも興味を持った。来年も参加したい」と話していた。

（平野巧）

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.

©京都新聞社　無断複製・転載を禁じます